



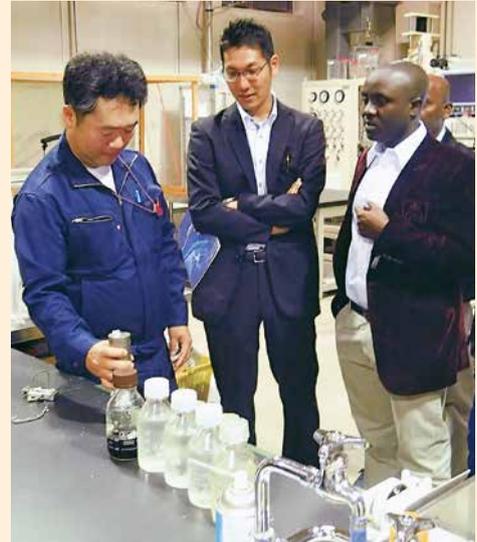
地域おこし協力隊通信

vol.51

こんにちは、地域おこし協力隊の大川です。今回は栄町にある研究施設・幌延ライズ（幌延地圏環境研究所）の活動内容を町民の皆さんに知ってほしいと思い、研究室へ伺いました。

幌延ライズは現在、「**地下バイオメタン**」の研究をすすめています。地下バイオメタンとは、微生物の力を借り、「**褐炭（かつたん）**」などから人工的に作ったメタンガスで、自然界に存在するメタンとは少し異なるものだそうです。褐炭に過酸化水素水を加え成分を抽出、発生する有機酸を微生物が餌として消化し、メタンを発生させます。将来的には化石燃料に代わる代替燃料として活躍が期待されます。

※**褐炭**とは…石炭の一種で、黒い石炭よりもやや純度が低いですが、幌延をはじめ道北の地下には大量にあるといわれています。泥炭・褐炭・黒い石炭、どれでもメタンを発生させることができるそうですが、その中でも褐炭が一番効率的にメタンを発生できるそうです。



また、実験で使う微生物は、地下深くから採取したもので、基本的には酸素のない環境で実験しなければなりません。ただ、酸素のない環境といっても真空ではなく、窒素・水素・アルゴンガスを混ぜたもので密閉するのだそう。こうすることで、より酸素を取り除いて、地下環境に近い状態で研究できるというお話でした。

現在幌延ライズで研究しているバイオメタンは、燃やしてしまえばもちろん二酸化炭素が生成されますが、石炭などの化石燃料に比べると、二酸化炭素の量が少ないのが特徴であり、環境にやさしい代替燃料です。世界中で二酸化炭素排出の削減が叫ばれており、化石燃料からの代替燃料としてこのバイオメタンが使われる日も近いのではないのでしょうか。

～終わりに～

地下バイオメタンの実用化が実現すれば、幌延発の研究成果が世界に発信されるという、すごいことになります！また、幌延ライズの皆さん（右写真）は、幌延ならではの技術や特産物ができたらと思い、「まちの研究所」の役割を意識して活動しています。町民の皆さん、幌延ライズの研究と一緒に応援しましょう。

